



【イエス・キリストの謙遜を見習って】

聖書:ピリピ人への手紙2章1-11節/暗唱聖句:パテロの手紙第一5章6節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん! アドベント2週目、始まった12月の一週間の間もキリストの平安のうちにお元気で感謝しつつ、過ごされたでしょうか。

<1. 謙遜な姿で来られたイエス・キリスト>

聖書を通して、2022年前、実際預言の通りに人類の歴史の中に来られた神の御子イエス様のご誕を詳しく見れば、その方がどのような姿を取り、この世に来られたのかが分かります。

神の御子、人類を救うために来られたそのメシヤ! 救い主イエスキリストが何と人間の中一番弱い赤ん坊の姿で来られたのではありませんか。

みなさんはこう想像して見たことがあるでしょうか。全能なる神様が、一番弱い時の赤ちゃんの姿で来られ、10ヵ月もの間、女性の子宮で過ごされたということが何を意味するのか、じっくりと黙想して見て下さい。エリザベス・ガンドルフオの表現を借りるなら、

「全能なる神がお腹を空かせて泣き、自分一人ではトイレにも行けず、鼻水をたらす小さくてしわくちやの赤ちゃんになられ」たのです。人類を救えるメシヤなるイエスキリストがわたしたちと同じようにお腹が空き、のどが渇き、涙が流れ、疲れを覚え、血が流れる体を持ち、その身をもって人から裏切られ、何度も殴られ、十字架につけられるまで、どれほどご自身を低くさせ、従われたイエス様の姿を覚えると、我らに多くの慰めを受けられるのではありませんか。

それだけではなく、イエス様は華麗なエルサレムではなく、イスラエルでだれも注目されなかった小さな田舎の町ベツレヘムでお生まれになりました。それだけではなく、神の御子が旅館でもなく、馬や牛が休むところ、しかも動物らの餌(えさ)の桶(おけ)でお生まれになったのでしょうか。小さいころ、私は神の御子が家もなく、そんなみずぼらしいところで生まれたという事が信じられませんでした。しかし、聖書によると、それは決して偶然でも、神の過ちでもありませんでした。神様の愛のご計画と深い摂理のもとでそうなされたのです。どうやって神様であられる方が、救い主であるメシヤがそんな場所を選んで、お生まれになったのでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん! イエス様のこの馬小屋飼葉桶でお生まれになられた事は何の意味があるでしょうか。世の中の一番貧しいところ、一番低いところがまさに、馬小屋の飼葉桶ではありませんか。イエス様はお生まれになられた時からこのように一番弱い姿で、一番低いところで来られたので、そのイエス様の謙遜は、生涯どんな大変な環境や苦しい境遇に置かれても比較したり、うらんだり、つぶやきませんでした。そしてどんな不便な環境や状況も耐える事が出来たのではないのでしょうか。

ここで、実際この世に来られたイエス様を通して、我らも人生の中で、謙遜はいのちのように大切であることを学ばされるのではありませんか。絶えず、聖書では自分を低くさせ、謙遜になるよう促して下さっています。

結局、多くの問題は、環境でも、他の人でもなく、自分を低くさせない、謙遜になれない自分の中にある多くの問題が実は根本的な問題ではありませんか。人は自分の中正しいと大切だと思っている価値観、基準、固執、思い込みが目指す方向はいつも良いところ、高いところへ、高く、高く、上ばかり目指している為、比較意識、被害意識、恨み、葛藤などが多く生じるでしょう。

今日の本文3節には、まず我らがそうならないように、こう教えて下さっています。

「何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」

イエス様の生涯を考えると胸が裂かれるように震えます。

イエス様はルカの福音書9章58節に、「イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巢があるが、人の子には枕するところもありません。」と言われました。イエス様は泊まるご自身の家のところすらなく、時々よく山の上で野宿(ろしゅく)されるほど、ご自分のすべてを無にされておられる生き方で歩まれたイエスキリストの真の謙遜さを学ばされます。

<2. 低くさせたイエスキリストの謙遜な具体的な姿:最後まで従う+仕える姿勢>

それに対して、今日の本文6-8節で、「6キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、7ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、8自ら低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。」

この地に来られたイエス様、その方の生き方のもとは何だったのでしょうか。そうです。謙遜でした!

ご自身を低くさせたイエス様のその謙遜は具体的に「仕える姿、従う姿」であられました。

イエス様は神様なのに、神様のあり方を捨てることをおしまず、むしろ自分を空しくし、無にして人と同じようになられ、死にまで従い、実に十字架の死にまで従われました。イエス様は真の神様であられるお方でした。しかし、神様が罪人を救うために、罪人と同じような姿とられました。そこで終わったのではなく、その罪人たちを愛するがゆえに地上で仕えて下さっただけではなく、人の全ての罪の代価として、ご自身を十字架にまでつけさせ、死なれるまで神のご計画に従われたのです。

この本文の一番大切な単語があればそれは「**空しく(無)して**」という単語だと思います。結局神様であられたイエス様が自ら自分を空しくして、一番低い者、しもべの姿となられ、仕え続け、死にまで従われたイエス様の謙遜な姿であったことを教えられます。イエス様の人生は、高いところへではなく、一番低い方向へと向かわれていました！

そのイエス様がヨハネの福音書13章イエス様は愛の残るところなく、人を愛し、最後まで仕えて下さいました。十字架にかかる前日、御自分が座るべき席に弟子たちを座らせ、むしろ腰をまげ、ひざまずいて弟子たちの足を洗われました。そして、そのイエス様は我々のために惜しみなく命まで捨てながら、最後まで従われました。まさにすべてご自身を無にさせたのです。この地に來られたイエス様の人生は**謙遜そのものであり、仕える、従う生涯**でした。イエス様がこの地に來られ、表して下さった核心価値(core Value)は**謙遜(仕える、従う)しもべの姿**でした。そのイエス様は信じる我らにもこう語って下さいました！

***ヨハネの福音書13章14-15、17節「14主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。15わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、わたしはあなたがたに模範を示したのです。17これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです。」**

***マタイの福音書20章28節に、「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるために來たのと、同じようにしなさい。」**

***ルカの福音書22章27節を読んで見ましょう。「食卓に着く人と給仕(きゅうじ)する者と、どちらが偉いでしょうか。食卓に着く人ではありませんか。しかし、わたしはあなたがたの間で、給仕する者のようにしています。」** これからも、自分を低くし、謙遜を実践する方法は、ほかの人の為に仕える時、他の人を高くあげる時こそ可能になります。

若いころ異端にはまっていたアウグスティヌスと言う人は母の祈りによって悔い改め、中世の偉大な神学者になります。彼の残りの生涯は誰よりもイエス様に似ていくために、仕え続けていた生涯でした。ある日、弟子たちが彼に問いました。“先生、クリスチャンとして持つべき最高の姿勢は何でしょうか。”

アウグスティヌスはこのように答えます。“**一番目、謙遜である。**”

すると“再び弟子たちが二番目は何でしょうか。”問うと、アウグスティヌスは“**二つ目も謙遜である**”、すると弟子たちは“三つ目は何でしょうか。”、“**三つ目も謙遜である！**”と答えたそうです。その後、弟子たちが再びこう質問します。

“先生、そしたら、謙遜の反対のことは何でしょうか。”

すると、アウグスティヌスは“それは高慢である”、すると弟子たちは、“先生、最後に高慢とは何でしょうか。”

アウグスティヌスは何と答えたと思われませんか。

“**自分はもう謙遜だと思ふことこそが高慢である**”と答えたそうです。

自分が謙遜だと思ふ瞬間、その人はすでに謙遜を失ってしまうという素晴らしい指摘でした。

サタンが始めての人間であるアダムを誘惑するとき、人生の方向をどこに向けさせますか？ サタンはアダムにおまへは神のようになれると誘惑したのです。もっと高く！神のように高く！もっと高く！と高慢をそそのかします。

このようなやり方こそ、今日、この世が我々を誘惑する方法ではありませんか。

ところが、この地に來られた神様であるイエス様は違った生き方を表して下さいます。

“**低くなりなさい！もっと低くなりなさい！**”**謙遜になりなさい。仕えなさい、従う者になりなさい**”と。

これが神の御子であられるイエス様の降誕から、十字架の死に至るまで、我々に表し、教えてくださる真のクリスチャンのあり方であり、生き方ではないでしょうか。

旧約聖書の初創世記によると、初人間だったアダムは不従順と高慢の罪を犯しました。アダムは神様になれないのにもかかわらず、神様のようになりたがりました！その高慢が彼を不従順にさせました。しかし、最後のアダムを象徴するイエスキリストは神様であるのに、愛の残るところなく仕えるしもべとなられ、罪人たちの為に仕え、十字架で死なれるまで神の御言葉に従われました。

そういうわけで神様は御子イエスキリストの御名を高くあげて下さいました。

イエス様は我らにご自身を通して謙遜を学び、その謙遜によって与えられる神の安らぎを得られるように命じて下さっています。「**わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。(マタイの福音書11章29節)**」

<3. 謙遜の聖書と原語の意味>

「謙遜」はヘブル語で「アナウ」という言葉で「**低くされる、苦しみを受ける**」などのような意味を持っています。特に謙遜を意味するアナウという言葉には特に「**苦難の意図的な結果や苦難の目的と関係**」がある言葉であって、謙遜というものは**苦難を通して身に頂けるもの**であることは分かります。ですから、今苦難の中にいる方々はこの時が決して無駄にならないことを信じて下さい。かならず謙遜を学ばされ、身に着けられる益となる時となりますから。

そして、もう一つ、「謙遜」と言葉についてラテン語では「**フ-ミリタス(humilitas;英humility)**」と言う言葉です。面白いところはこの単語の語源は、「**フ-ムス(humus)**」つまり、「**地**」を意味する言葉から始まったと言う事なのです。

愛するみなさん！地はどんな所でしょうか。ある意味で、この世の自然万物の中で地は一番低いところ、みんなに踏まれる所、すべてを受け入れるところ、ゴミも、汚いものでも捨てられるまま地は止められずそのまま抱くところではないでしょうか。しかし、その地の中にいのちが蒔かれ、根をおろし、芽生え、花を咲き、ついに実を結ばせるいのちを抱いているところも地なのです。

みなさん！なぜあんなに一番低いところ、あちこちから踏まれ汚れたところである地がいのちを育て、いのちを結ばせ、いのちを倍加させる美しいところになるのでしょうか。

地は上を、空を見上げているからなのです。空の光、エネルギーを頂くからなのです。ですから、**謙遜は、自分を低くし、神様を見上げる者のみに与えられ、結ばれる神様からのものであるといういみでしょう。**

パーカー・パルマル(Parker J. Palmer)先生は「謙遜」についてこう言われました。

「**謙遜は我々を低いところに導く。だからそこは立っていても、倒れても、安全で、平気な地である。謙遜はもっと平安で充満な自分自身を見いだすことができるようにする**」

みなさん！人はしきりに認められたい、高いところへ上がろうとしています。実は、一番低いところにいる時一番安全で、揺るぎません。一番低いところにいる時、我々は自分の存在自体に満足することが出来るようになります。

神様は謙遜という器に大切な恵み、知恵、平安と高くさせてくださる祝福を約束されました。

<4. 謙遜！さらなる神の祝福を蓄える器！>

高く上げられた謙遜なイエスキリスト:自ら一生低くされたイエス・キリストを神様はそこで終わらせません。

本文9-11節「9それゆえ、神は、**この方(イエス・キリスト)を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。**

10それは、**イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてがひざをかがめ、11すべての舌が、「イエス・キリストは主です(Jesus Christ is Lord)」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」**

神様は謙遜になされたイエス様をどうされましたか。神様はイエスキリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになり、すべての万物がひざをかがめ、すべての口が「**イエス・キリストは主(救い主)である**」と告白するようにされました。神様は一番低くされたイエス様を一番高く上げて下さったのです。

しかし、反対に一番高慢で高く上がろうとしていたサタンを地獄にまで低くさせ裁かれるように決めました！

神様は自分を大きい者だと思ふ者は用いられません。用いないだけではなく、むしろ退けられると言われました。

「**なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。(ルカ14章11節)**」

また、神様は**謙遜な人に恵みを施して下さると約束**されました。

「**神は、さらに豊かな恵みを与えて下さる**」と。それで、こう言われています。「**神は、高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与える。(ヤコブの手紙4章6節)**」

そして、**神様の前で、謙遜な者は、自身の弱さ、限界を認めつつ、常に全能なる神の力強い御手に委ねて生きています！**

「**ですから、あなたがたは神の力強い御手の下(もと)にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げて下さいます。(ペテロの手紙第一5章6節)**」

神様は謙遜な者に知恵も下さるとも約束されています。

「**高ぶりが来れば、辱(はずかし)めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。(箴言11章2節)**」

「**主を恐れることは知恵の訓戒である。謙遜は榮譽(えいよ)に先立つ。(箴言15章33節)**」

愛する信仰の家族のみなさん！**謙遜の反対である高慢は、どれほど恐ろしいものか知っていますか。**

イギリスのC.S.ルイスはこう言いました。「**高慢は靈的癌です。それは愛、感謝、自足する心だけではなく、常識までかすめとります。**」高慢は我々の靈的な目をくらまし、耳もふさいでしまいます。常識が通らず、一人将軍になってしまいます。

しかし、へりくだる者に知恵が与えられるのは、自分の足りなさを自分が感じ知恵を求めるからです。
高慢な人はいつも自分が正しく、自分がすべてを知っていると錯覚しているため、聞こうとも、学ぼうともしませんが、
へりくだる者はいつも自分の足りなさを感じ、悟ります。どんなに学んでも足りないと思うので、神様の御言葉を学ぼう
と努力します。そういうわけで、学べば学ぶほど謙遜にならざるを得ません。

「高慢は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。(箴言16章18節)」

祈りの人ジョージミュラー先生が設立した孤児院の園長フレド・バーガーという方は一生涯主に仕えた後、次のような
有名なことばを残しました。“神は人が小さすぎて用いられないことではなく、大きすぎて用いられないのだ。”

**「それゆえ、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を
身に着なさい。(コロサイ人への手紙3章12節)」**毎朝着る服を選んで着るように毎日選び取るべき品性、心構えの衣が
謙遜です。謙遜というは決して自然に身に着けられるものではありません。服を着替えるように我々の存在にいつも留
まらせなければなりません。**謙遜というものはイエスキリストの生き方でした。神の品性です。**

ですから、聖霊の助けを頂かなければなりません。神様はへりくだった者に無限の豊かな祝福を与えてくださることを
確実に約束されています。

アドベント2週目、我らに來られたイエスキリストの謙遜の御姿、その模範を学び、心に留め、我らもイエスキリストのよう
に謙遜に歩む一週間となりますように切にお祈り申し上げます！

へりくだったイエス様を学び、イエス様を模範とし、我々も自分を低く指せ、自分の位置と役割と限界を覚えましょう。

キリスト者として謙遜というものをいつもしっかり身に着けることは一生涯の目標でなければならない課題です。

今日全能なる主の御前にイエスキリストのように毎日謙遜を身に着けて、毎日謙遜の衣を着て歩みながら、さらなる神
の祝福を頂き蓄える器となる全クリスチャンプレイズチャーチで信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名に
よってお祈りいたします。アーメン！